

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	学校法人愛知大学
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	愛知県豊橋市町畑町字町畑1番地の1
工場等の名称	愛知大学 名古屋校舎
工場等の所在地	名古屋市中村区平池町四丁目60番6
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	大学
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年10月19日 ~ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲 示 閲 覧	(場所) 愛知大学 名古屋校舎 名古屋総務課
		ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	nsomu@aichi-u.ac.jp		

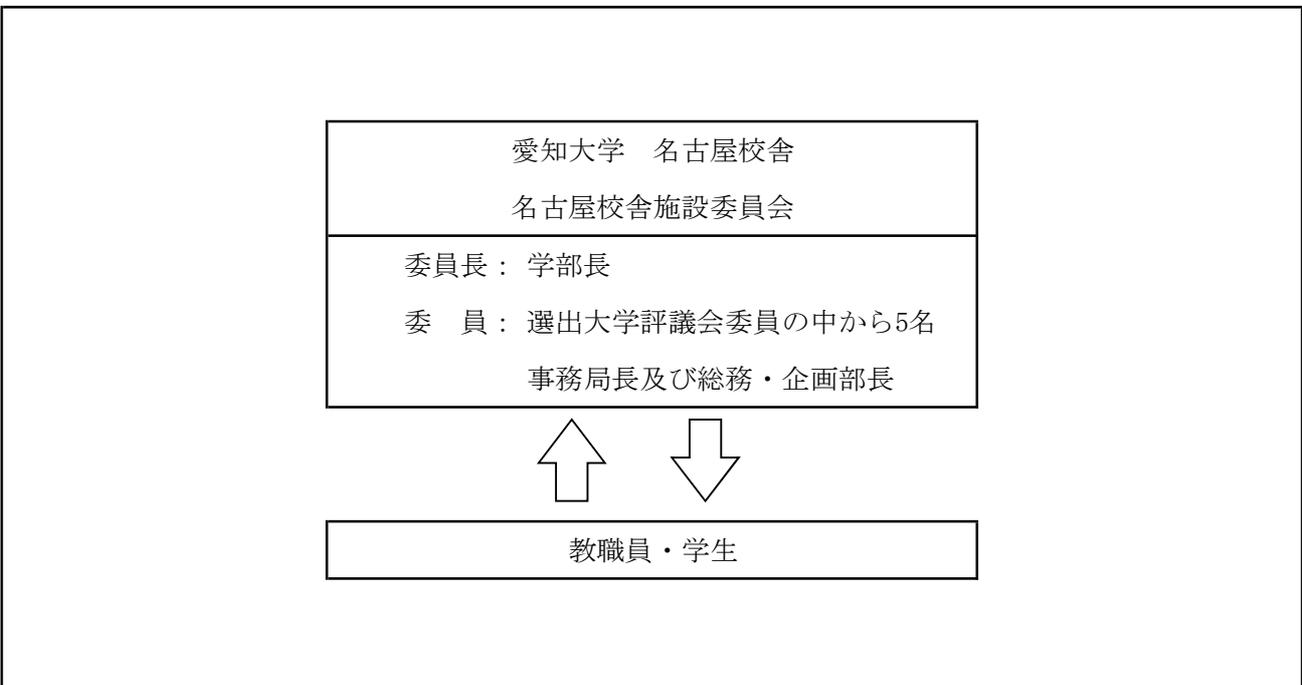
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当名古屋校舎においては、学校法人愛知大学におけるエネルギー使用の合理化に関するガイドラインに従い、地球環境保全の重要性を認識し省エネルギー、低炭素化に貢献します。

- ① 「省エネルギー法」の目的にしたがい、原単位にて令和6年度末までに令和3年度比で3%以上CO2排出量を低減させることを目標とし、技術的かつ経済的に可能な範囲内で排出CO2量抑制に努める。
- ② 省資源・省エネルギー活動の推進
事業所で使用する電気、燃料等の使用量を原単位で令和6年度末までに令和3年度比3%削減します。
- ③ 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
廃棄物発生量を抑制します。
- ④ 教職員、学生への啓蒙
学内掲示板、ポータルサイト等を通じて教職員、学生へ省エネ、エコ活動の啓蒙を実施します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和3年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,371	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,371	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	
------------------	--

項目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
		t-CO ₂		t-CO ₂		%
温室効果ガス 総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		%

項目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		%
原単位あたりの 排出量	0.03098	t-CO ₂ / m ²	0.03005	t-CO ₂ / m ²	3.0	%

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の実践	厚生棟 2F～6F共用部残置照明の点灯時間変更 ■現状 【残置灯】6:30～11:00、14:30～最終退館OFF ■改善 【残置灯】6:30～ <u>8:30</u> 、 <u>21:00</u> ～最終退館OFF	継続的に、日中の残置灯点灯時間を9.0H削減し、使用電力量を削減する ■平成30年度実績 8,882kWh ■令和2年度実績 3,044kWh ■令和3年度実績 3,044kWh
省エネルギー・省資源の実践	講義棟 男女トイレのウォシュレット電源OFF ■現状 24時間電源ON 365日 ■改善 7:00～22:00	継続的に、講義棟の男女トイレの夜間帯の待機電力を削減する ■平成30年度実績 17,885kWh ■令和2年度実績 11,168kWh ■令和3年度実績 11,168kWh
省エネルギー・省資源の実践	講義棟 共用部FCU運転時間変更 ■現状 7:00～22:00 ■改善 <u>7:30～21:00</u>	継続的に、講義棟共用部のFCU運転時間を1.5H削減し、使用電力量を削減する ■平成30年度実績 57,277.5kWh ■令和2年度実績 51,549.75kWh ■令和3年度実績 51,549.75kWh
省エネルギー・省資源の実践	・クールビズ、ウォームビズの推奨 ・ブラインド活用による日射負荷の低減	
廃棄物の排出抑制	・両面、集約の印刷、裏紙利用等より紙使用量の削減 ・事務用品、事務用機器の再利用	
省エネルギー・省資源の実践	蛍光灯をLEDタイプへ取替（厚生棟課室） ■現状 蛍光灯 32型2灯タイプ 633灯 総消費電力 42,488w 32型1灯タイプ 269灯 総消費電力 11,845w ■改善 LED 32型2灯タイプ 633灯 総消費電力 27,219w 32型1灯タイプ 269灯 総消費電力 5,649w 令和3年3月実施の為、今年度の見込みは無し	蛍光灯をLEDへ取替し使用電力量を削減する ■令和2年度実績 195,598.8kwh ■令和3年度実績 118,324.8kwh
省エネルギー・省資源の実践	厚生棟・研究棟 各倉庫給排気ファンの運転時間変更 ■対処 厚生棟：B11、B12、B13、B14倉庫 研究棟：DHC受入室 MB11、MB12倉庫 ■現状 厚生棟 5時間/日 研究棟 14時間/日 ■改善後 厚生棟 1時間/日 研究棟 5時間/日	倉庫の空調運転時間の変更し、使用電力量を削減する ■令和2年度実績 17,703.60kwh ■令和3年度実績 5,357.11kwh ■削減効果 電力量 12346.49kwh 削減見込み

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none">・ライトダウンキャンペーン活動に参加。・中間期に於ける換気運転を積極的に利用し、熱源受入量の削減を実施。

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

省エネルギー・省資源・温暖化防止に寄与する為、ポスター・サイネージ等で来訪者への周知を図る。
--